

【大鹿村】校務DX計画

2026年1月

		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	※留意事項
共通項目	FAX・押印の原則廃止に取り組んだ学校の割合	50%	100%	100%	100%	100%	・クラウドツールの未活用やFAXでのやり取り・押印の見直し、不合理な手入力作業の一掃については、校務の効率化・ペーパーレス化の大きな阻害要因になっているものであることに十分留意すること。
	不合理な手入力作業の一掃に取り組んだ学校の割合	100%	100%	100%	100%	100%	
	クラウド環境を活用した校務DXの徹底に取り組んだ学校の割合	100%	100%	100%	100%	100%	
選択項目	3.学校から保護者へ発信するお便り・配布物等をクラウドサービスを用いて一斉配信している学校の割合	0%	50%	100%	100%	100%	・自治体として力を入れたい内容をリストから選択する。 ・選択肢はGIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリストの34項目より作成。自己点検の結果等を踏まえつつ、教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現する上で障害となる課題を選択する。
	9.1人1台端末を児童生徒に持ち帰らせ、家庭で利用できるようにしている学校の割合	50%	50%	100%	100%	100%	
	32.1人1台端末のパスワードについて、教職員が把握し一括で管理するのではなく、児童生徒に管理を任せている学校の割合	50%	50%	100%	100%	100%	
課題と解決策の具体	教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現する上で障害となる課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校管理職の理解や関与 ・保護者の理解 ・ICTを苦手とする職員への支援 					
	教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現する上で障害となる課題の解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校管理職を対象とする研修会の開催、専門家の学校訪問による支援、校長会・教頭会等での情報共有 ・保護者を対象とするウェブサイト等による情報発信 ・ICT支援員による支援、ビギナーを対象とする研修会の開催 					
	校務系ネットワーク・システム等の現状分析や、望ましい校務の在り方に関する検討の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・次第にクラウドベースのシステムに入れ替わっていくことが想定されるため、現行のネットワーク・システムを次世代校務システムに対応できるよう更改を検討する。また、毎年度情報収集し、望ましい校務の在り方の検討を進める。 					

※この計画は「公立学校情報機器整備事業に係る各種計画の策定要領」の14ページを参考に作成。